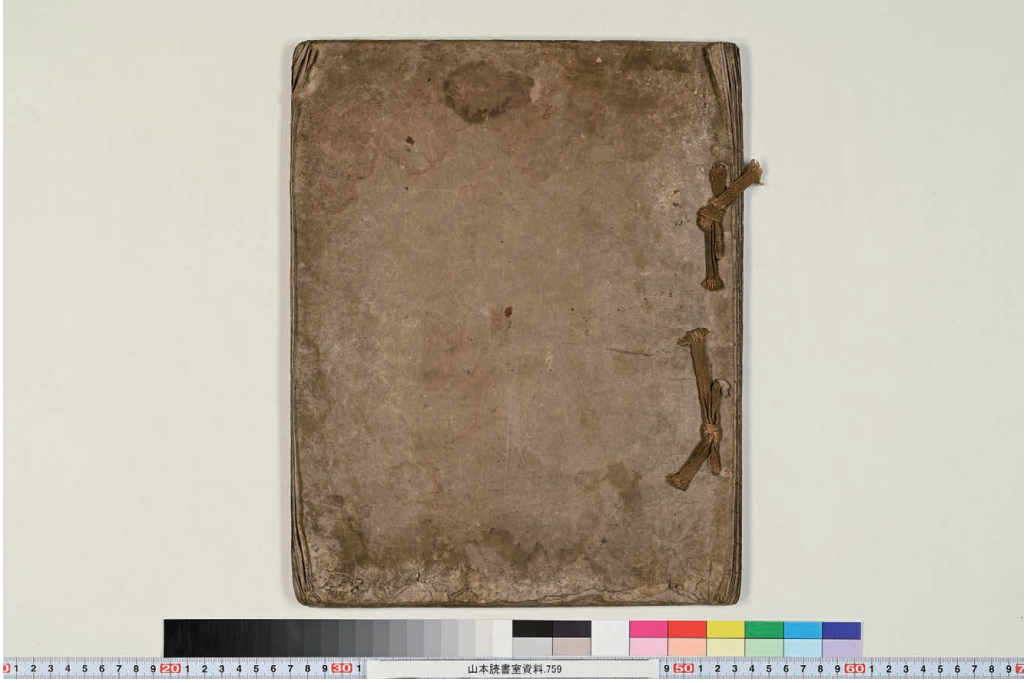
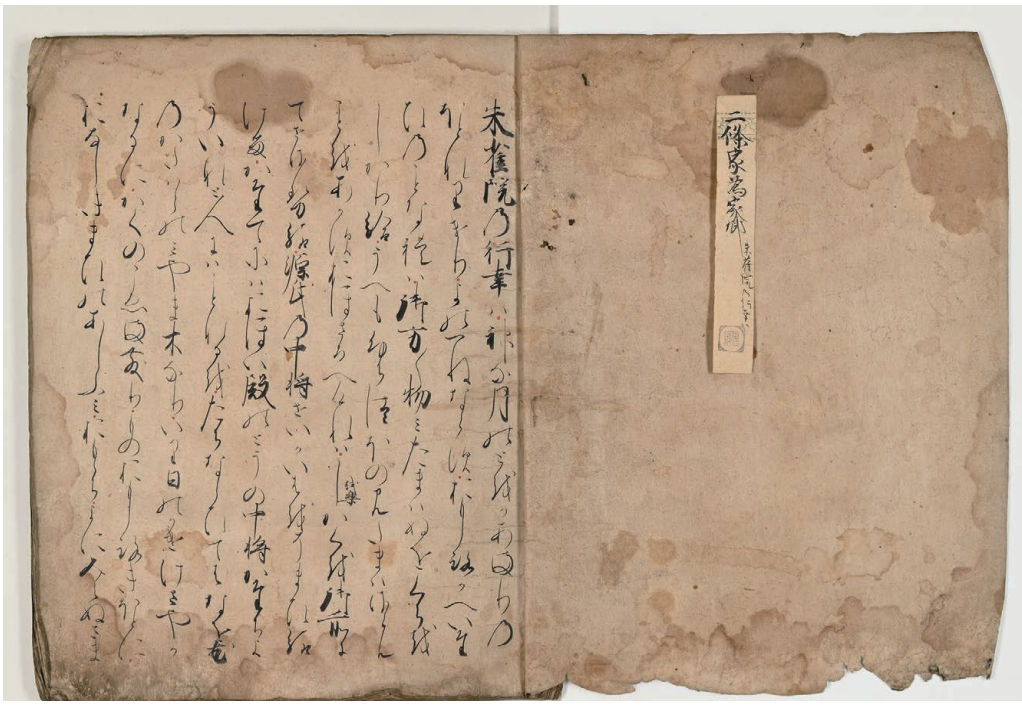


「源氏物語　紅葉賀巻　二條家為家卿貼紙」表紙



（一丁表）　（見返し・極札）

京都府立京都学・歴彩館寄託『源氏物語』紅葉賀巻の紹介と翻刻

― 山本読書室資料と「伝為家筆本源氏物語」―

安達敬子

天明四年（一七八四）に儒医山本封山が開き、その後一二〇年にわたって活動した京都の本草漢学塾、山本読書室が所蔵した膨大な資料は、明治四〇年（一九〇七）にその大部分が岩瀬文庫に流出した[1]。しかし、山本読書室旧跡の土蔵に伝来していた資料群が平成二六年（二〇一四）に松田清氏の手で調査整理がなされ、web上に公開された「山本読書室資料仮目録　統合電子版」によって、その全貌がほぼ明らかになった。この山本読書室資料は、現在京都府立京都学・歴彩館に寄託されている。そして、松田氏の仮目録中「源氏物語　紅葉賀　二條家為家卿　貼札」（目録番号七五九）とある一冊が、蓬左文庫蔵『尾州家河内本源氏物語』と同時期の十三世紀半ばまで遡る河内本本文として、近年注目されている「伝為家筆本源氏物語」の僚本の一つと考えられる[2]（巻頭図）。山本読書室資料の『源氏物語』紅葉賀巻は学界に未紹介であるため、書誌情報と本文をここに掲載する次第である。

まず、書誌事項を掲げる。

列帖装のように紙を重ねた大和綴（平紐）一冊

縦33、1㎝×横26、4㎝　書写年代は鎌倉中期。

料紙は斐紙　表紙は無地、本文と共紙。破れ・虫喰いは無いが、水濡れによるシミ・汚れがある。

箱・帙・袋等はなし。

極め札「二條家為家卿　朱雀院の行幸は」（初代朝倉茂入の印・13、8×2㎝）が見返しに貼られている。なお、薄雲巻古筆切にやはり初代朝倉茂入の極め札を持つものがある[3]。

外題はなし。

全二九丁、遊紙はない。墨付二九丁、本文十一行、

字数は一行二一～二五字。

字高27、1㎝。和歌は二字下げでそのまま地の文に続くよう記される。

行の中央に句読朱点が付されている。

筆跡は、既に報告されている賢木・薄雲・槇柱巻の断簡、天理本蓬生巻の一丁表と酷似している（後掲図①・②・③・④）。

山本読書室本は、縦三〇センチを越える大型大和綴本で料紙・行

数・字数・和歌の書式・朱点の存在などが既に紹介されている「伝為家筆本源氏物語」の写本や断簡と同じ特徴を備えている。和歌の後に付された朱点も、全て和歌と引用の格助詞「と」の間に打たれており、他の「伝為家本源氏物語」で報告されている用法と同じである。

さらに、先行研究では「伝為家筆本源氏物語」の原装形態は大和綴と推測されているが、これまで紹介された現存する写本は、断簡のほかは巻子本に改装されたものがほとんどであり、唯一の冊子本（藤裏葉巻）④も後の改装で大和綴ではない。山本読書室本の原表紙は消失しているものの、装幀自体は綴じ穴の変更もなく列帖装のように紙を折り重ねた大和綴という本来の形をとどめている、と推測できる。

また、既存の「伝為家筆本源氏物語」には朱点による句点が本文中に多数施されており、山本読書室本も同様であるが、複数の丁に朱のウツリが散見される（一例として後掲図⑤・⑥・⑦参照）。これは本が閉じられた際に重なった紙面の対応箇所の朱点が移ったものと考えられ、ここからも山本読書室本の装幀が朱点が施された書写時のままであることがうかがえる。

参考までに、山本読書室本の綴じ穴の間隔を、他の「伝為家筆本源氏物語」の断簡や料紙に残る綴じ穴痕と比較したものを掲げる。

山本読書室本（縦33、1㎝）

紙の上部から一つ目の綴じ穴　7、2㎝
一つ目の綴じ穴から二つ目の綴じ穴　5、6㎝
二つ目の綴じ穴から三つ目の綴じ穴　7、0㎝
三つ目の綴じ穴から四つ目の綴じ穴　5、6㎝
四つ目の綴じ穴から紙の下部　7、6㎝

国文学研究資料館蔵河内本源氏物語「薄雲」巻断簡（縦31、8㎝）⑤

紙の上部から一つ目の綴じ穴　6、5㎝
一つ目の綴じ穴から二つ目の綴じ穴　5、4㎝
二つ目の綴じ穴から三つ目の綴じ穴　7、7㎝
三つ目の綴じ穴から四つ目の綴じ穴　5、4㎝
四つ目の綴じ穴から紙の下部　6、8㎝

個人蔵「薄雲」巻断簡（縦32、6㎝）⑥

紙の上部から一つ目の綴じ穴　7、2㎝
一つ目の綴じ穴から二つ目の綴じ穴　5、2㎝
二つ目の綴じ穴から三つ目の綴じ穴　7、7㎝
三つ目の綴じ穴から四つ目の綴じ穴　5、2㎝
四つ目の綴じ穴から紙の下部　7、3㎝

写本の巻が異なるためか綴じ穴の配置にやや違いはあるものの、ほぼ同じ形の造本と見なしてよいのではないだろうか。これまでに「伝為家筆本源氏物語」は断簡を含めおよそ二十の巻が報告されているが⑦、未発見であった紅葉賀巻の本文だけでなく、成立した当時の書物の大きさや形態を知るうえで山本読書室本の持つ価値は大きい。

後に山本読書室本と尾州家本の本文を対校して掲載したが、これで見る限り山本読書室本の本文には訂正は非常に少ないが、尾州家本は書き入れ等修正が目立つ。そして、山本読書室本は尾州家本に比べて声点はわずかしか付されず、振り仮名は山本読書室本が、振り漢字は尾州家本の方が多いという傾向を指摘できる。

○山本読書室本のみに存在する振りかな（墨色・本文とは別筆、丁数は山本読書室本のもの）

承香殿（しょうかうでん）・秋風楽（しうふうらく）（四オ）　手本（てほん）（五ウ）　僧都（そうづ）（六オ）
王命婦（わうみやう）・兵部卿（ひやうぶきやう）（六ウ）　朝拝（てうはい）（八オ）　内宴（ないえん）（一一オ）　した草（くさ）（二〇ウ）　頭中将（とう）（二一ウ）　屏風（ひやうぶ）（二四オ）　宰相（さい）（二八ウ）

○山本読書室本の振り漢字（墨色・本文とは別筆、尾州家本にも同じものあり）

しかく（試楽）（一オ）　ゑい（詠）・かれうひんか（迦陵頻伽）（一ウ）　はうし（拍子）（一七オ）
うむめいてん（温明殿）（二二オ）

○尾州家本にのみ存在する振り漢字

かいしろ（垣代）・りんたい（輪臺）（三オ）　いりあや（入綾）（四オ）　そそき（楚）・なや（追）
らふ（儺）（八ウ）　ゆし給（由）（一六ウ）

本文については、先行研究に既に指摘されている通り、「伝為家筆本源氏物語」と尾州家本には非常な親近性があり、紅葉賀巻においても、表記を含めて両者は直接関係に近いものがあると思われる。

○紅葉賀巻の本文については、全体的には尾州家本の補入や削除といった修正の結果、尾州家本の訂正本文が山本読書室本と一致することが多い。

これとは逆に、山本読書室本の修正によって、尾州家本の訂正前の本文と一致する例を以下にあげる。明らかな山本読書室本の脱字の訂正は除いた。

御ほうしなとしたまふ〈に〉も（六ウ）、ことそ〈と〉侍らぬほと（七オ）、みやいとわ〈ひ〉しく（一一ウ）、かよひ給へるにこそは〈と〉・ありさまかたち〈に〉ねひもて（一四オ）、〈まつ〉くね〳〵しく（一七ウ）、うちすきなま〈ほ〉しけれと（二三オ）、屏風のもとによりて〈こほ〳〵と〉たゝみよせ（二四オ）、きみもつか〈う〉まつり給（二八ウ）

〈　〉内が山本読書室本文に補入された箇所である。

○山本読書室本が、尾州家本など他の河内本本文に対し独自異文を持つ箇所。

かくたのもしけなき御こゝろをつらしとおもひきこえ（一〇ウ）
他本は「つらしとは」、この花ひらにときこゆるを御こゝろにも（一五ウ）他本は「わか御心にも」、これをみつけたるこゝちいとうれしうおかしうおもふ（二三ウ）他本は「おかしとおもふ」、すりのかみなとやうにこそ（二三ウ）他本は「なとやうにこそは」、

おもひたりしさまのさすかにて（二六オ）他本「おもひたりしさまも」、ものしたまゝしと（二九オ）他本「ものしたまはましと」。

――は山本読書室本、……は河内本の共通本文。

○山本読書室本と尾州家本の修正本文が一致して、他本に対し異文を持つ場合は一例。

わかきみは時々そおもひ〈いて〉（尾州家本も「いて」が挿入）きこえたまふ（六オ）他の河内本本文は「おもひきこえたまふ」

文字表記について、山本読書室本と尾州家本は一致している場合が多いが、異同としては山本読書室本の仮名書き「こゝろ」「こと」「らん」が尾州家本では多く「心」「事」「覧」と漢字表記される。

また、これも従来から指摘されている動詞「みる」について、尾州家本はほぼ「見る」と漢字表記する事例が山本読書室本との対比でも確認された。

最後に、伝為家筆本紅葉賀巻が山本読書室所蔵となった時期や経緯については不明である。もともと山本読書室の蔵書は本草学・漢籍が圧倒的な割合を占め、他には有職故実や読書室関係の記録書類、書簡類が多く、国文学和学の書はごく少数しかない。しかもそのほとんどが歌書・歌学関係であった。

松田氏の仮目録中、古典和歌は『古今和歌集』・『後撰和歌集』・『百人一首』・『草庵和歌集』・『詩歌合』。注釈では、『百人一首御講尺聞書』・『古今秘伝』・『古今余材抄』。物語関係は『伊勢物語』・『源氏物語』紅葉賀巻・『土佐日記』・『風葉和歌集』など。なお、和歌懐紙、短冊、近世の詠草等は多数残されている。岩瀬文庫の山本読書室旧蔵本目録にみえる蔵書の傾向も、比較的少ない和学書のうち和歌関係が多数を占めるという点でほぼ同様である。

山本封山・亡羊父子は、本草学との関連もあって万葉集研究に携わり、父封山は歌人小沢蘆庵や伴蒿蹊、故実家の橋本経亮などと親交があった。また亡羊の夭折した兄伯賢（世竜）が蘆庵の高弟として嘱目されていたこと、亡羊も蘆庵に和歌を学んだことなど、山本家の人々は歌学・和学に親しんでいたという[8]。山本読書室の家の学問である本草学や儒学とは別に、これらの歌書が和歌を好んだ一族の人間によって個人的に蒐集された可能性も考えられるが、全て未詳と言うほかない。ちなみに、岩瀬文庫蔵本となったものと併せても、山本読書室所蔵の『源氏物語』は当該紅葉賀一巻のみである。

〈注〉

①松田清『山本読書室資料仮目録　統合電子版』あとがき（516頁～520頁）。山本読書室については、遠藤正治編『讀書室200年史』（山本読書室刊、1981）・松田清『京の学塾　山本読書室の世界』（京都新聞出版センター、2019）・松田清「山本章夫筆山本亡羊伝『先人言行禄』について」（『近世京都』4、2021）など。

②「伝為家筆本源氏物語」については、早くに山岸徳平「北條實時

の好學及び愛書と蒐集」（『尾州家河内本源氏物語開題』尾張徳川黎明會、１９３５）・堀部正二「源氏物語雑々私記」（『中古日本文学の研究』教育図書、１９４３）に言及が見え、尾州家本と密接な関係があり、金澤文庫周辺で製作されたことが示唆されていた。近年の研究で、さらに続々と伝本や断簡が報告され、その詳細と河内本としての本文の特徴が解明されつつある。

岡野道夫「源氏物語　藤裏葉巻」解説と翻刻ー日本大学総合図書館伝為家筆本ー」（『語文　四十三輯』１９７７）、「源氏物語　柏木巻」解説と翻刻ー日本大学総合図書館蔵、伝為氏筆本ー」（『商学集志・人文学編』八巻一、１９７６）、「源氏物語　夕霧巻」解説と翻刻ー日本大学総合図書館蔵伝為家筆本ー」（『商学集志・人文学編』九巻一、１９７７）。

高田信敬「源氏物語の古筆切　二題」（『源氏物語と源氏以前　研究と資料』武蔵野書院、１９９４）。

渋谷栄一「国学院大学図書館蔵伝藤原為家卿筆『源氏物語　花宴』（一軸）について」（『國學院大學図書館紀要』第７号、１９９５）。

小林強「源氏物語関係古筆切資料集成稿」（『本文研究　第六集』和泉書院、２００４）。

大内英範「河内本の本文についてー尾州家本の本文様態と「伝為家筆本」ー」（『講座源氏物語研究第７巻　源氏物語の本文』おうふう、２００８）。

田中登「伝藤原為家筆『源氏物語』薄雲巻断簡の紹介」（『年報第２８号　源氏物語特集』実践女子大学文芸資料研究所、２００９）。

池田和臣「源氏物語の古筆切」（『紀要　文学科　第九一号』中央大学文学部、２００３）。

岡嶌偉久子「天理図書館蔵伝為家・為相筆『源氏物語　蓬生』ー『尾州家河内本源氏物語』との対校からー」（『ビブリア　一三六号』２０１１）、「天理図書館蔵「伝俊成筆源氏物語鈴虫巻ー「尾州家河内本源氏物語」との対校からー」（『ビブリア　一三九号』２０１３）。

武藤那賀子「学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻　解題と翻刻（第一・二軸）」（『人文　１４号』２０１５）、「学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻　解題と翻刻（第三軸）と僚本／古筆切」（『人文　１６号』２０１７）。

岸本理恵「伝藤原為氏筆『源氏物語』藤袴巻の新出断簡」（関西大学『國文学』１０４、２０２０）。

横井孝「為家本源氏物語『幻』の紙質と筆者」（実践大学文芸資料研究所主催「紙のレンズから見た古典籍ー高精細デジタルマイクロスコープの世界ー」https://www.jissen.ac.jp/branding_genji/events/210313.html、２０２１）。

③「実践女子大蔵源氏物語古筆切目録」（『年報　第３４号』実践女子大学文芸資料研究所、２０１５）の薄雲断簡⑤には、初代朝倉茂入の極札「中院亜相為家卿　きこゆるに」が付されている。

また、小松茂美『古筆学大成』第二三巻（講談社、１９９２）所収「伝藤原為家筆源氏物語切（薄雲）」図版１６５にも初代朝倉茂入の極札が付属とある。

④注②岡野道夫「源氏物語　藤裏葉巻」解説と翻刻ー日本大学総合図書館伝為家筆本ー」（『語文　四十三輯』１９７７）による。

⑤国文学研究資料館編『古筆への誘い』（三弥井書店、２０１５）掲載写真による。

⑥武藤那賀子「学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻　解題と翻刻（第三軸）と僚本／古筆切」（『人文　１６号』　２０１７）による。

⑦現在本文が報告されている「伝為家筆本源氏物語」の巻は、帚木（巻子本）・夕顔（断簡）・若紫（断簡）・花宴（巻子本）・賢木（断簡）・蓬生（巻子本）・薄雲（断簡）・藤袴（断簡）・真木柱（断簡）・藤裏葉（冊子本）・柏木（巻子本）・鈴虫（巻子本）・夕霧（巻子本）・幻（巻子本）・竹河（断簡）。

⑧加藤弓枝「蘆庵門の俊秀歌人山本世竜についてー本草の家平安読書室と和学ー」（『東海近世』第一四号、２００４）。

紅葉賀巻　翻刻

〔凡例〕

一、山本読書室本の改行箇所・和歌の書式は原本の通り。丁の最後の行末を　」で示し、丁数の表・裏を記した。

一、また、行数を行頭にアラビア数字で示した。

一、本文中の朱点は「・」で記し、仮名表記は現行のひらがな表記に統一した。

一、本文の補入箇所は〈　〉、ミセケチは‖（取り消し線）で表した。

一、振り漢字・ふりがなは文字の右に小字で記した。

一、本文右に尾州家河内本の本文（『尾州家河内本源氏物語第二巻』八木書店、２０１１）との対校を記した。尾州家本の朱点と声点は記さない。対校本文に対応する文字がない箇所は相互に「○」で示した。

尾州家本の補入箇所は（　）、ミセケチは‖（取り消し線）で表した。

尾州家本の改行箇所は「／」で示し、丁の最終行の末尾に丁数の表裏を記した。

尾州家本の朱筆合点は「〲」で記した。

注意箇所は（　）に小字、また※を付け最後に注記した。

尾　　／

1朱雀院の行幸は・神な月のとをかあまりの

尾　　／

2ほとなりけり・よのつねならす・おもしろかへいた

尾　　見　／　お

3ひのことなれは・御方〳〵物みたまはぬをくちを

尾　　み／

4しかり給・うへもふしつほの見たまはさらん

尾事○　／試楽

5ことをあかすおほさるへけれは・しかくを御前に

尾　　／

6てせさせ給・源氏の中将せいかいはをそまひ給

尾　　／

7ける・かたてにはおほい殿のとうの中将かたちよ

尾　　ほ／

8ういなと人にはことなるを・たちならひてはなを花

尾　　／

9のかたはらのみやま木なり・いり日のかけけさやか

尾　　／

10なるに・かくのこゑまさり・ものおもしろきほとに・

尾　　／（一オ）　見

11おなしきまひのあしふみ・おもゝち・よにみえぬさま」（一オ）

尾
1なり・ゑ（詠）いなとしたまへるほと・これやほとけの御
尾
2かれう（迦陵頻伽）ひんかのこゑならんときこえて・おもしろく
尾
3あはれなるに・みかともなみたをのこひ（を）給・かん
尾
4たちめみこたち・みななきたまひ（ひ）ぬ・ゑいはてゝ
尾
5そてうちなほしたまへるほとまちとりたるか
尾
6くのにきはゝしきに・中将いろあひいとゝまさり
尾
7て・つねよりもひかるとみえたまふ・東宮の女御（見）かく
尾
8めてたきにつけても・たゝならすおほして・かみな
尾
9とのそらにめてたまひつへきかたちかな・うたてゆゝ
尾
10しとのたまふを・わかき女房なとこゝろうしとき（一ウ）
尾ゝ
11きけり・ふちつほはおほけなきこゝろのなからましかは（心〇〇）」（一ウ）

尾
1とおほすも・ゆめのこゝちなんし給ける・ことはてゝ・宮
尾
2はやかて御とのゐなり・けふのしかくはせいかいはに
尾
3ことつきぬな・いかゝみたまへつるときこえたまへは・あい
尾
4なう御いらへきこえにくゝて・いとことにはへりつとはか
尾
5りきこえたまふ・かたてもけしうはあらすこそみえ（見）
尾
6つれ・まひのさまこゝろつかひなん・いへのこはことなる・こ
尾
7のよに名をえたる・まひのしのおのことも（を）は・けにいと（いと）
尾
8かしこけれと・こゝしうなまめいたるすちをなん
尾
9えみせぬ・こゝろみの日かくつくしつれは・賀の日や・さ（二オ）
尾
10う〳〵しからん・されと見せたてまつらんのほいにて・ようい
尾
11せさせつるなりなときこえたまふ・中将君・いかに御」（二オ）

尾　／世　見
1らんしけんよにしらぬみたりこゝちなからこそな
尾　／　／
2ときこえたまへり
尾　／
3　ものおもふにたちまふへくもあらぬ身のそて
尾　心○○　／
4うちふりしこゝろしりきや・とある・　御かへりめも
尾　／
5あやなりし御かたちありさまに・え見たまひ
尾　／
6しのはすやありけん
尾　ほ　／
7　から人のそてふることはとをけれとたちゐに
尾　見　／（二ウ）
8つけてあはれとはみき・とあるを・かきりなくめつら
尾　／
9しきにも・なみたおちてかやうのかたさへたと〳〵
尾　／
10しからす・人の御かとまておほしやれる・御きさき
尾　／
11ことはのほゝゑまれつゝ・ち経のやうにひろけて」　（二ウ）

尾　／（ルビなし）
1ゐたまへり・行幸（ぎやうかう）にはみこたちなとのこる人なくつ
尾　／
2かうまつりたまふ・東宮もおはします・れいのか
尾／
3らめいたるふねこきめくりて・もろこし・こま
尾　／
4なとつくしたる・まひのくさともおほかり・かく
尾　／
5のこゑつゝみのをとよをひゝかすしかくの日・源氏
尾　覧○　／
6のきみの御ゆふかけ・ゆゝしう御らんせられしを・おも
尾　／（三オ）
7ほして・みす行とも・ところ〳〵にせさせたまふを・
尾　／
8ことはりとあはれかりきこゆるに・春宮の女御はあな
尾　／　垣代
9かちなりと・にくみきこえたまふ・かいしろなとには・殿
尾　心○○　／
10上人も・地下も・こゝろことなりと・よの人におもはれたる
尾　／　輪臺
11いうそくのかきりえらせたまへり・りんたいはゑもん」　（三オ）

尾　／
1のかみ左兵衛のかみ・みなかんたちめたちすくし
尾　／
2たまへるかきり・てをつくしてとゝのえさせ給・ま
尾　／
3ひのしともなと・よになへてならぬをとりつゝこも
尾／（なん）
4りゐてなん・ならひける・こたかきもみちのかけに・四十
尾　／
5人のかいしろいひしらすふきたてたるものゝね
尾　／（三ウ）
6ともにあひたる・山の松風まことのみやまおろし
尾　／
7ときこえてふきまよひ・いろ〳〵さとちりまかふもみち
尾　／
8のなかより・せいかいはのかゝやきいてたるさまいみし
尾　／見
9うおそろしきまてみゆ・かさしのもみちいたうちり
尾　／
10すきてかほのにほひにけをされたるこゝちすれは・
尾／お
11御前なるきくををりて左大将さしかへたまふ・」（三ウ）

尾　／
1ひのくれかゝるほとけしきはかりうちしくれたるそ
尾　見
2らのけしきさへみしりかほなり・いひしらすひかり
尾（まへ）／
3たまへる御かほに・いろ〳〵うつろひたるきくのえなら
尾　／
4ぬえたをかさして・けふはまたなきてをつくしたり・
尾　入綾／（四オ）　見
5いりあやのほと・そゝろさむく・このよの物ともみえ
尾　／
6す・いふかひなくものおもひしるましきしつのをま
尾　／見
7て・いはかくれやまのこのはにうつもれて・みたてま
尾　／（ルビなし）
8つりては・なみたをなんをとしける・さては承香殿（しようかうてん）の
尾　／（ルビなし）
9四の御こ・またわらはにて・秋風楽（しうふうらく）まひたまひけるなん・
尾　／
10さしつきの見ものなりける・これらのおもしろさつき
尾　／
11ぬれは・こと〳〵にはめもとまらす・かへりてはことさまし」（四オ）

尾　　／
1にやありけん・その夜源しの中将・正三位し給・
尾　　／
2とうの中将正下のかゝいし給・かんたちめなとまて・
尾（みな）　／（四ウ）
3みなさるへきかきりはよろこひし給も・このきみに
尾　　／　　を
4ひかれたてまつりたまふことなれは・人のめおとろか
尾　心○○　／
5し・こゝろをもよろこはせたまふ・むかしのよゆか
尾　　／　給○
6しき人の御ちきりなり・宮はそのころまかてたま
尾○　／
7ひぬれは・れいのひまもやあると・うかゝひありくを
尾　　／
8やくにて・おほいとのにはさはかれたまふ・いとゝかのわか
尾　／　（の）
9草たつねとり給てしを・二条○院に・人むかへたま　※①
尾　／
10ふなりと人のきこえけれは・いとこゝろつきなしとおも　／
尾　　／
11ほしたり・うち〳〵のありさまはしりたまはて・さも　（四ウ）

尾　　／
1おほさんは・ことはりなれと・心うつくしう・れいの人の
尾　／（五オ）
2やうにうらみたまはゝ・われもうらなくうちかたり
尾　／
3てなくさめきこえてんものを・おもはすにのみ・とりな
尾　心／○○
4いたまふこゝろつきなさに・あくかれたちて・さもある
尾／　／
5ましき・すさひこともいてくるそかし・人の御ありさ
尾　事○　／
6まのかたほに・そのことのあかぬかなとおほゆるきすもなし・
尾　／
7人よりさきに見たてまつりそめてしかは・あはれに
尾／　／
8やんことなくおもひきこゆるこゝろさしは・なへてならぬ
尾　／
9を・しりたまはぬほとこそあらめ・さりともつゐには
尾　／　心○○　／（五ウ）
10おほしなをりなんと・おたしうかる〳〵しからぬ御こゝろを
尾　／　見
11たのまるゝかたはいとことなりけり・おさなき人はみつい」（五オ）

尾　　／　　こゝろ
1給まゝに・いとおかしきこゝろさまかたちにて・なに心〇〇もな
尾　　／
2くむつれまとはしきこえたまふを・あはれとおもひき
尾／　　／
3こえたまふことはひにそへてまさりゆく・しはしは・との
尾、　　／
4のうちの人にも・たれとしらせしとおほして・はなれ
尾　　／
5たるたいに・御しつらひかゝやくはかりして・われも
尾　　／　ひ
6あけくれいりゐたまふつゝ・よろつの御事ともを　※②
尾　　／　　／
7おしへきこえたまふ・手本（てほん）かきてならはしなとしつゝ・
尾　　／（六オ）
8たゝほかなりける御むすめなとを・むかへきこえた
尾　　／
9まへらんやうにおほしたり・まところけいしなとより
尾　　／
10はしめて・みなことにわかちてなに事もこゝろもとな
尾　　／（う）　／
11からす・つか〇まつらせ給・これみつよりほかの人はおほつかな」
※③（五ウ）

尾　　／
1くのみおもひきこえたり・かのちゝ宮も・えしりたまはさり
尾　　／（いて）
2けり・わかきみは時々そおもひ〈いて〉きこえたまふ・あまきみを
尾／　　／　お
3はこひきこえつゝなきたまふをり〳〵おほかり・きみおはす
尾　お　　／
4るをりは・まきらはしてもおはするを・よるなとはとき〳〵
尾　　／
5こそとまりたまへ・こゝかしこの御いとまなくて・くるれ
尾　　／（六ウ）　お
6はいてたまふを・したひきこえたまふをりなとあ
尾　　／　　／
7るを・いとらうたくおもひきこえたまへり・二三日内に
尾　　／
8もさふらひたまひ・おほいとのにもおはするほとは・
尾　　／（おもやせ）　／心〇〇
9いといたうくして・おもやせなとしたまへは・こゝろ
尾　　／
10くるしうて・はゝなきこもたらんこゝちして・ありき
尾　　／（ルビなし）
11もしつこゝろなくおほえたまふ・僧都（そうづ）もかくなときゝ」（六オ）

尾　／
1たまふて・あやしきものからうれしとなんおほし
尾　／
2ける・かの御ほうしなとしたまふ〈に〉も・いかめしく
尾　／　／
3とふらひきこえたまひけり・ふちつほのまかてたま
尾　／（七オ）
4へる・三条のみやに御ありさまゆかしうてまい
尾　（ルビなし）　／
5りたまへれは・王命婦（わうみやう）・中納言の君・中務なとやうの
尾
6人々たいめしたり・けさやかにもてないたまふかな
尾　／
7と・やすからすおもへと・おもひしつめて・おほかたの御
尾　／　（ルビなし）　みや／
8ものかたりなときこえたまふほとに・兵部卿（ひやうふきやう）の宮〇まい
尾　／
9りたまへり・この君おはすときゝたまて・たいめし
尾　／
10たまへり・いとよしあるさまして・色めかしく・なよ
尾　／　見
11ひたる・さましたまへるを・おんなにて・みんはおかし」（六ウ）

尾　／　見　／
1かりぬへく人しれすみたてまつり給にも・かた〳〵むつ
尾　／（七ウ）
2ましうおほえたまて・こまやかに御ものかたりきこ
尾　あ　／
3えたまふ・宮もこの御〇〇さまのつねよりことに・こゝろけさ
尾　／
4うして・なつかしうゝちとけたまへるを・いとめてた
尾　／見　／
5しとみたてまつりたまて・むこになとはおほしよらす・
尾　見　心〇〇／
6をんなにて・みはやといろめける・御こゝろには・まもられ
尾　／
7たまひけり・くれぬれは・みこうちへまいりたまふを・
尾　／
8うらやましく・むかしはうへの・御もてなしにいとけちか
尾　／
9く・人つてならて・ものをもきこえなとしたまし
尾　／
10を・こよなくうとみたまへるも・つらくおほゆるそ・わ
尾　／（八オ）
11りなきや・しは〳〵もさふらふへけれと・ことそ〈と〉侍らぬほと」
（七オ）

尾　　／
1はおのつからおこたり侍を・さるへきことなとはおほせ
尾　　／
2事も侍らんこそうれしくなとすく〳〵しうていてた
尾　　／
3まひぬ・命婦もたはかりきこえんかたなく・宮の御け
尾　　／
4しきもありしよりは・いとうきふしに・おほしおきて・
尾　　／
5こゝろとけぬ御けしきも・いとはつかしけれは・なにのし
尾　　／
6るしもなくてすきゆく・はかなのちきりやとのみ・
尾　　／　事○　　／お
7おほしみたるゝことつきせす・少納言はおほえす・を
尾　　見　　／
8かしきよをもみるかな・これもあまうへの・たゝこ
尾　事○　　／（八ウ）
9の御ことをのみ・おほしなけきつゝ・おこなひたまし
尾ほとけ　　／
10佛○○の御しるしにやと・やう〳〵おほゆるに・おほい
尾　　／
11とのいとやんことなくておはす・さらぬしのひところ・」（七ウ）

尾　　／
1おほくかゝつらひたまふめるそ・まことにおとなひ
尾　　／
2たまはんほとには・むつかしうやとおほえける・され
尾　　／
3とかくとりわきたまへる・御おほえのほとは・いとたの
尾　　／
4もしけなり・御ふくは・はゝかたなれは・三月にてこ
尾　　／
5そはとて・つこもりには・ぬかせたてまつりたま
尾　　／ふ
6ふを・又おやもなくて・おいゝてたましかは・○○こゝろくる
尾　　／
7しさに・まはゆきいろにはあらてをとて・くれな
尾　　／（九オ）
8ゐ・うすいろ・むらさきのちのかきりおれる御こう
尾　　／
9ちきなとを・きたまへる御さま・いみしう・いまめか
尾　　／（ルビなし）
10しう・おかしけなり・おとこ君は・朝拝（てうはい）にまいりたま
尾　　／
11ふとて・いとうるはしう・さうそきて・さしのそき」（八オ）

尾　／
1たまへり・けふよりはおとなしくなりたまへり
尾　／
2やとて・うちゑみたまへる・いとめてたうあいきや
尾　／　たま　／　楚
3うつき給〇へり・いつしかとひゝなをしすゑて・そ
尾、　／
4そきゐたまへり・三尺のみつしひとよろひに・し
尾　／
5な〳〵しつらひすゑて・又ちゐさきやともなと
尾　／
6つくりあつめて・たてまつりたまへるを・とこ
尾　／（九ウ）　追　儺
7ろせきまて・あそひゝろけ給へり・なやらふとて・
尾　／
8いぬきか・これをみなうちこほち侍にけれは・つく
尾　／　心〇〇
9ろひ侍とて・いと大事とおほしたりけり・いとこゝろ
尾　／
10なき人のしわさにも侍るなるかな・いまつくろは
尾　／
11せ侍らん・けふはことといみして・なゝき給そとて・いて給」（八ウ）

尾　／
1きしきところせきを・人々はしにいて、見たてまつ
尾　／　見
2れは・ひめ君もさしいてゝみたてまつり給て・
尾　／　し
3ひゐなのなかの・源氏のきみも・つくろひたてゝ・
尾　／
4内へまいらせなとしたまふを・ことしたにすこし
尾を　／
5おとなひさせ給へ・とをにあまりぬる人は・ひゝ
尾　（なる）　／（十オ）
6なあそひはいみ侍なるものを・又かく御をとこなと
尾　／
7まうけたてまつらせたまては・あるへかしう・しめ
尾　見　／を
8やかにこそみえたてまつらせたまはめ・〈お〉くし
尾　／
9まいるほとをたに・ものうくせさせたまてなと・少
尾　心〇〇　／
10納言きこゆ・あそひにのみこゝろをいれ給へれは・はつ
尾　／
11かしとおもはせたてまつらんとていへは・こゝろのうちに」（九オ）

尾　　お　／
1われはさは・をとこまうけたるなりけり・この人々の
尾　　／見
2おとことてあるは・みにくゝこそあめれ・我はかく
尾　　／
3おかしけなる人を・もたりけるかなと・けふそおほし
尾ゝ　　／
4しりける・さはいへと・御としのかすそふ・御しるし
尾　　／
5なめりかし・かくおさなき御けしきの・ことにふれ
尾　　／（十ウ）　事○
6てしるけれは・とのゝ中の人もあやしとおもふこと
尾　　／
7もありけれと・いとかくよつかぬ御そひふしならん
尾　　／
8とは思よらさりけり・君は・うちより・おほいとのにま
尾　　／
9かてたまへり・れいのうるはしく・よそほしき・御さ
尾　　／
10まにて・心うつくしき御けしきもなく・ゝるしけ
尾　　／
11れは・ことしよりたに・すこしよつきて・あらためた」　／（九ウ）

尾　　心○○　見　／
1まふ・御こゝろのみえは・いかにうれしからんなときこえ
尾　　／
2たまへと・わさと・人すゑて・かしつきたまふときゝた
尾　　／
3まてし・のちよりは・やんことなく・おほしさためた
尾　事○　　こゝろ　／
4ることにこそはと・いとゝ心○○をかれて・うとくはつか
尾　　／（十一オ）
5しうのみおほさるへし・せめて見しらぬやう
尾　　／
6に・もてなしてみたれたまへる・御もてなしに・えしも
尾心○○　　／
7こゝろつよからす・御いらへなとうちきこえたまへる・
尾　　／
8はたなを人よりは・いとことなり・よとせはかり
尾　　／　心○○
9か・このかみにおはすれは・さかりにとゝのほりてこゝろ
尾　　／　事○
10はつかしけなるさましたまへり・なにことかは・こ
尾　　／
11の人のあかぬところは・ものしたまふ・わか心のけしからぬ」（十オ）

尾　／
1すさみに・かくうらみられたてまつるそかしとおほし
尾　／
2しらる・おなし大臣ときこゆるなかにも・いとおほえ
尾　／
3やんことなくものし給か・宮はらにたゝひとりいつ
尾　心○○を　／（十一ウ）
4きゝこえたまふ・御こゝろおこり・いとこよなくて・すこし
尾　／
5もおろかなるは・めさましとおもひきこえたまへるを・
尾お　／
6をとこ君は・なとかさしもと・ならはしきこえ給ほとの・御
尾　／
7こゝろのへたてともなるへし・おとゝもかくたのもし
尾　心○○　は　／
8けなき御こゝろを・つらしと○おもひきこえたまひな
尾　見　／
9から・みたてまつり給ときは・うらみもわすれて・かし
尾　／
10つきいとなみきこえたまふ・つとめていてたまふとて・
尾　／
11御さうそくし給ところにも・わたりたまて・名たかき」（十ウ）

尾　／
1御をひなと・てつからもていてたまて・おほんそのし
尾　／
2りひきつくろひ・とかく御くつとらぬはかりにしたま
尾　（ルビなし）／
3ふも・いとあはれなり・内宴（ないえん）なといふことゝも侍へかな
尾　お　／（十二オ）
4るを・これはさやうのをりにこそなときこえたまへ
尾　／
5と・それにはまされるとも、侍めり・これはたゝめなれ
尾　／
6ぬさまに侍れはなんとて・しゐてさゝせたてま
尾　／　見
7つり給・けによろつにかしつきたてゝ・みたてまつり
尾　／
8給に・いけるかひあり・たまさかにても・むことては・
尾　覧○　見む　／　事○
9かゝらん人をいたしいれてみんにますことあらし
尾　見　／（に）
10とみえたまふ・参さしにとても・あまた所○もありき
尾　／
11給はす・内・春宮・一院はかり・さてはふちつほの三条〈の〉宮」※④（十一オ）

尾　　／見
1にそまいりたまへる・けふは又ことにもみえ給かな・ね
尾　　／
2ひ給まゝに・ゆゝしきまてなりまさり給・御あり
尾　　／
3さまかなと・人々めてきこゆるを・宮もみきちやうの
尾　　見　／（十二ウ）事○
4ひまよりほのみたまふに・つけては・おほすことしけ
尾　　／　心○
5かりけり・この御事・しはすもすきにしかは・こゝ
尾○　　／
6ろもとなきに・この月はさりともとまつにつれな
尾　　／
7くてたちぬ・御ものゝけにやと・よ人もきこえさ　は
尾　　事○　／
8くを・みやいとわ〈ひ〉しく・このことにより・身のいたつら
尾　　こゝ
9になるへきとおほしなけくに・御心○ちもいとくる
尾　　／
10しうて・なやみ給・中将の君は・いとゝあはれにおほ
尾　　／
11しあはせられて・みすほうなと・さとはなくて・ところ〳〵」
（十一ウ）

尾　　／
1にせさせ給・よの中のさためなきにつけても・は
尾　　／
2かなくてやゝみなんと・ゝりあつめなけき給に・
尾　　／
3二月十よ日のほとに・おとこみやむまれ給ぬれは・
尾　　／
4なこりなく・うちにもみや人もよろこひきこえたり・
尾　　／（十三オ）
5いのちなかくもとおほすは・心うけれと・こきてんなと
尾　　／
6の・うけはしけにのたまふときゝしを・むなしくき
尾ゝ　　／
7きなしたまはましかは・人わらはれにやあらましと・
尾　　／
8おほして・やう〳〵さはやかに・もてなし給・うへのいつし
尾　　／
9かと・いふかしくおほしめしたる事かきりなし・
尾　　／
10かの人しれぬ御こゝろにも・いみしうこゝろもとなく
尾　　／
11て・人まにまいりたまふて・うへのおほつかなかり」（十二オ）

尾　　／
1きこえ給を・まつ見たてまつりて・くはしくそう
尾　　／
2し侍らんときこえたまへと・むつかしきほとに
尾　　見　　／
3なんとて・みせたてまつらせ給はぬもことはりなり・
尾　　／
4さるはいとあさましくめつらかなるまて・うつし
尾　　／（十三ウ）見
5とり給へるさまたかふへくもあらす　みえたまふ・宮
尾　　／　　見
6御こゝろのおにゝいとくるしう・いかに人みたてまつ
尾　　／
7るらん・あやしかりつるほとのあやまりを・まさ
尾　　／事〇
8に人おもひとかめしや・さらぬはかなきことをたに・き
尾　　／
9すをもとむるよの中に・いかなる名の・つゐにもり
尾　　／
10いつへきにかとおほしつゝくるに・御身のみそいと
尾　　（や）　　／
11くるしきや・命婦のきみにたまさかにあひたま」
（十二ウ）

尾　　事〇　　／
1ひては・いみしきこととともをつくし給へと・なにの
尾　　／
2かひあるへきにもあらす・わかみやの御事もわり
尾　　／
3なくおほつかなかりきこえたまへは・なとかうしも・
尾　　を　　見　　／
4のたまはすらん・いまおのつからみたてまつらせ給
尾　　／（十四オ）
5てんものをと・きこえなから・おもへるけしき・かたみに・
尾　　／
6たゝならす・かたはらいたき事ともなれは・おもふまゝ
尾　　／　　事〇と
7に・まほにもえのたまはて・あはれおもふことゝもを・い
尾　　／
8かならんよに・人つてならてきこえしらせんとて・
尾　　心／〇〇
9なきたまふさまこゝろくるしけなり
尾　　／
10　いかさまにむかしむすへるちきりにてこのよに
尾　　事〇　　心〇〇　　／
11かゝるなかのへたてそ・かゝることこそこゝろえかたけれとの」
（十三オ）

尾　　／　　見
1たまふ・命婦も宮のおほしたるさまなとを・みたて
尾　　／
2まつるに・えはしたなくもさしはなちきこえす
尾　見　見　／（十四ウ）
3　みてもおもふみぬはたいかになけくらんこやよの
尾　心○○　〆／　事○と
4人のまとふてふやみ・あはれにこゝろゆるひ○なき御こと、
尾　／
5もかなと・しのひてきこえけり・かくのみいひやるか
尾　／
6たなくて・かへりたまふものから・人のものいひもわつ
尾　／
7らはしきを・わりなき事におほしのたまひて・
尾　／
8命婦をもむかしおほしたりしやうには・えうち
尾　／
9とけたまはす・人はめたつましうなたらかにもて
尾　／　〆
10なし給ものから・こゝろつきなとおほす○○ときもある
尾（へき）　／　心○
11へきを・いとわひしうおもひのほかなるこゝちすへし・」
（十三ウ）

尾　／
1四月にそうちへまいり給・ほとよりはおほきにおよ
尾　／
2すけ給て・やう〳〵おきかへりなとし給・あさましき
尾　／（十五オ）　／
3まてまきれかたき御かほつきを・おほしよらぬ事
尾　／
4にしあれは・たゝならひなきとちは・にかよひ給へ
尾○　／
5へるにこそは・〈と〉おほしめしけり・おもほしかしつく事
尾　／
6かきりなし・源氏のきみをかきりなきものにおほし
尾　／
7めしなから・よの人のゆるしきこゆましかりしに
尾　／
8よりて・坊にもえすゑたてまつらせ給はすなりにし
尾　／
9を・あかすくちをしう・たゝ人にて・かたしけなき御あ
尾　／
10りさまかたち〈に〉ねひもておはするを・御らんするまゝに・
尾　／
11こゝろくるしうおほしめすを・かくやんことなき御はら」
（十四オ）

尾
1に・おなしひか　／（十五ウ）りにて・さしいてたまへれは・きすな
尾
2きたまと　おほしかしつくを・宮はいかなるにつけて
尾　／
3も・むねのみひまなくやすからす・物おほす・れいの　／
尾
4中将のきみ・こなたにて御あそひなとし給　たま／ふ　○　○に・い
尾　／
5たきいてたてまつらせ給て・みこたちあ　またあれと・
尾
6そこをのみなん・こゝろとゝめてかゝるほとより・みなと　心○○　／　見
尾
7せしかは・おもひわたさるゝにやあらん・いとよくこそ　／
尾
8おほえたりけれ・ちゐさきほとはみなかくのみあ　／
尾
9るわさにやあらんとて・いみしうゝつくしとおもひ　／　う
尾
10きこえさせ給○へり・中将のきみおもてのいろかは　た／ま
尾
11るこゝちして・おそろしうも・かたしけなくも・うれしう・」　／（十六オ）　／（十四ウ）

尾
1あはれにも・さま〳〵にうつる心ちして・なみたおちぬ　／
尾
2へし・ものかたりなとして・うちゑみたまへるか・いとゆ　／
尾ゝ　う　／
3ゆしうゝつくしきに・わか身なから・これにゝたらん
尾
4は・いみしういたはしく・おほえたまふそ・あなかちな　／
尾　／
5るや・宮はわりなくかたはらいたきに・御あせもな
尾／
6かれてそおはしける・中将のきみは・なか〳〵なる　／
尾
7こゝちのかきみたるやうなれは・まかて給ぬ・わか御方　／
尾
8にふしたまひて・むねのやるかたなきほとすくし　（の）　／
尾
9て・おほいとのへとおほす・おまへのせんさい・なにとな　／（十六ウ）
尾
10くあをみわたれるなかに・とこなつのはなやかに　／
尾
11さきいてたるを・おらせ給て・命婦のもとにかきたまふ・」　／（十五オ）

尾
1ことはおもひやるへし　／
尾
2　よそへつゝみるにこゝろはなくさまてつゆけさ
見
尾
3まさるなてしこのはな・はなにさかなんとおもふた
〈ヘ／
尾
4まへしも・かひなきよに侍ければとあるを・さりぬ
尾
5へき人まにやありけん・御らんせさせて・たゝち
／
尾
6りはかり・この花ひらにときこゆるを・〇〇御こゝろにもゝ
わか　心〇〇　も
尾
7のいとあはれにおほしゝらるゝほとにて
／　し
尾
8　そてぬるゝつゆのゆかりとおもふにもなをうと
／（十七オ）
尾
9まれぬやまとなてしこ・とはかりほのかにかきさしたる
尾
10やうなるを・よろこひなからたてまつる・れいの事
尾
11なれはしるしあらしかしと・くつをれてなかめふし」
／
（十五ウ）

尾
1たまへるほとに・むねうちさはきて・いみしうゝれしき
／
尾
2にも・なみたはおちぬ・つく〳〵と・ふしたるにも・やるかた
／
尾
3なき心ちすれは・れいのなくさめには・西のたいに
／
尾
4そわたり給・しとけなくうちふくみたまへるひん
／
尾
5くきなから・あされ・なよひたるうちきすかたにて・
／
尾
6ふえを・なつかしくふきすさひつゝ・のそき給へれ
／（十七ウ）露〇
尾
7は・女きみは・ありつるはなのつゆにぬれたる心ちして・
／
尾
8そ〈ひ〉ふし給へるさま・うつくしくらうたけなるに・
い／
尾
9あひ行こほるゝやうなり・おはしなからとくもわたり
／
尾
10たまはぬか・なまうらめしけれは・れいならすそむ
と／
尾
11き給へるなるへし・はしの方についゐて・こちや〇」
／
（十六オ）

尾　　／
1のたまへと・おとろかす・いりぬるいそのとくちすさひて・
尾　　／
2くちおほひたまへるさま・いみしくされてうつ
尾　　／
3くし・あなにくかゝることならひたまひにけり
尾　へ見　／　（よ）
4な・みるめにあくはまさなきことそよとて・人め
尾　　と　／
5して御ことゝりよせさせて・ひかせたてまつり
尾　　／（十八オ）へ
6給・さうのことはなかのほそをの　たえかたきこそ・と
尾　　／　を
7ころせけれとて・平てうにおしくたしてしらへたま
尾　　／
8ふ・かきあはせはかりひきて・さしやり給へれは・え
尾　　／
9ゑしはてゝ・いとうつくしうひきたまふ・ちゐさき
尾　　／　由
10ほとにさしやりて・ゆし給御てつきのいとうつ
尾　　／
11くしけれは・らうたしとおほしてふえふきなら」　（十六ウ）

尾　　／
1しつゝ・をしへきこえ給・いとさとくて・かたきてうし
尾　　／
2ともを・たゝひとわたりにならひとり給・おほかたら
尾　　心○○　／
3う〳〵しう・おかしき御こゝろはへを・おもひし事かな
尾　　右　／
4ふとおほす・ほそろくせりといふもの・なはにくけれと・
尾　　／（十八ウ）
5おもしろくふきすまし給へるに・かきあはせて・ま
尾　　／
6たわかけれと・はうしたかはす・上すめきたり・
尾　○　（とも）　見／　拍子
7おほとのなふらなと・まいりて・ゑとん　なとみ　給に・いて
尾　　／
8給へしとありつれは・人々こはつくりきこえつゝ・あ
尾　　／　心
9めふりぬへしなときこゆるに・わかきみれいのこ
尾○○　見　／
10ころほそくて・うちくし給へり・ゑもみさして・うち
尾　　／
11うつふしておはすれは・らうたくて・御くしのいと」　（十七オ）

尾　　／
1めてたくて・こほれかゝりたるを・かきなてゝ・ほか
尾　　／
2なるほとはこひしくやおほすとの給へは・うなつき
尾　　／見
3給・まろもひと日もみたてまつらぬは・いとくるしう
尾　（は）　／
4こそはあれ・されときみは・またおさなくおはするほと
尾　心○○　／（十九オ）
5は・こゝろやすくおもひきこえて・〈まつ〉くね〳〵しく・うらみな
尾／　心○○
6とする人のこゝろ　やふらしとおもひて・しはしかくも
尾　　／
7ありくそよ・ものゝ心しりたまひ・れいのやうに見
尾　　／
8なしたてまつりては・ほかへもさらにいくまし・人のうら
尾　　／
9みおはしなとおもふも・よになかくありて・おもふさまに
尾見　思○○　／
10みえたてまつらんとおもふそかしなと・こま〳〵とかたらひ
尾　（さすかに）　／
11きこえたまへは・さすかにはつかしくて・ともかくもいらへきこえ」
（十七ウ）

尾　　／
1給はす・やかて御ひさによりかゝりてねいり給ぬれは・
尾　心○○　／
2いとこゝろくるしうて・こよひはいてすなりぬとの給へは・
尾　　／
3みなたちて・御たいなとこなたにまいりたり・ひめ
尾　／（十九ウ）給○
4きみをこしたてまつり　たまて・いてすなりぬと
尾　　／
5きこえ給へは・なくさみておきたまへり・もろともに・も
尾　　／
6のまいれと・はかなけにすさひて・さらはね給ねか
尾（と）　／　見
7しと・あやふけにおほしたり・かゝるをみすてゝは・
尾　　／
8いみしきみちなりとも・おもむきかたくおほえ給・
尾　　／　ゝ
9かやうにとゝめられ給おり〳〵なともおほかるを・を
尾　　／
10のつからもりきく人・おほいとのにきこえけれは・たれ
尾　　／
11ならんいとめさましき事にもあなるかな・いまゝて」　（十八オ）

尾　　／
1その人ときこえす・さやうにけしからすまつはした
尾　（なと）　／　心○○
2はふれなと するは・あてやかにこゝろにくき人にはあ〆る〈ら〉
尾　　／　　見
3し・うちわたりなとにて・はかなくみたまひけん
尾　　／（二十オ）
4人を・ものめかし給て・人もやとかめんとて・かくし
尾　　こゝ　／
5たまふなゝり・心○ちなけにいわけてきこゆるはなと・さ
尾　　／
6ふらふ人々もきこえあへり・うちにもかゝる人あり
尾　　お／
7と・きこしめして・いとを しくおとゝのおもひなけく
尾　事○　／
8なること・いとものけなかりしほとを・おほな〳〵かく
尾　　／　心○○　事○
9わさとものしたるこゝろなとを・さはかりのこと・たとらぬはか
尾　／
10りにはあらしを・なとか・さなさけなくは・もてなす
尾　／　／
11なるそなとのたまはすれと・かしこまりたるさまにて・」（十八ウ）

尾　　／
1御いらへもきこえ給はねは・こゝろゆかぬなかなるへし
尾　　お
2と御らんしていとをしくおほしめす・さるは・すき〳〵
尾　　見　（にも）／（二十ウ）（又）
3しくうちみたれて・このみゆる女房ともにも・　又
尾　　見　／
4御かた〳〵の人々なとなへてならすともみえきこえさ
尾　　／
5めるを・いかなるものゝくまにかくれありきてかは・
尾　　覧○
6かく人にもうらみらるらんとおほしのたまはす・
尾　／
7みかと・御としねひたまひにたれと・このかたはなを
尾　／　（も）
8すてかたうおほして・うねへくら人なとをも・かたち
尾　／
9こゝろあるをは・ことにもてはやし・おほしめしたれは・
尾　／
10よしあるみやつかへ人おほかるころなり・はかなき
尾事○／
11ことをもいひふれたまふには・もてはなるゝ事も」　（十九オ）

尾　／
1ありかたきに・めなるゝにやあらん・けにそあや
尾　／
2しうすいたまはさめる・あつまりてたはふれこと
尾　／　／（二十一オ）
3きこえかゝりなとするおりあれと・なさけなからぬ
尾　／
4ほとに・うちいらへて・まことにはうちあひたまはぬ
尾　／
5を・まめやかにさう〳〵しとおもひこきゆる人もあ
尾　／
6り・としいたくおいたるないしのすけの・人もや
尾む　／
7んことなくおほえたかくはありなから・いみしくあた
尾　／
8めきたる心さまにて・そなたにはおもからぬあり
尾　／
9けり・かくさたすくるまてなとかくみたるらんと・いふ
尾　／
10かしくおほえ給けれは・たはふれこといひふれて・
尾心○○　／
11こゝろみたまふに・にけなくは・おもはさりけり・あさま」
（十九ウ）

尾　／
1しとおほしなから・さすかにかゝるもおかしくて・も
尾　／
2のなとのたまてけれと・人のもりきかんも・いとふる〈め〉
尾　／（二十一ウ）
3かしく・われはつかしきほとなれは・つれなくもてな
尾　／
4したまへるを・女はいとつらしとおもへり・うへの御
尾　／
5けつりくしにさふらひけるを・はてにけれは・うへ
尾　／
6はみうちきの人めして・いてさせたまひぬるほとに・
尾　／
7又人もなくて・このないしつねよりも・きよけに・
尾　／
8やうたいかしらつきなまめいて・さうそくありさ
尾　見／
9まもいとはなやかに・このもしくみ　ゆるを・さもふ
尾　心○○　見　／
10りかたくもと・こゝろつきなくみたまふものから・いか
尾　／
11におもふらんと・さすかにすくしかたくて・ものすそを」
（二十オ）

尾　を　／
1ひきおとろかしたまへれは・かはほりのえならす・ゑ
尾　見／
2かきたるをさしかくして・みかへりたるまみいと
尾　／（二十二オ）
3いたくみの〇へたれと・まかはいたくゝろみおちいりて・
尾　〇　／
4いみしうは〈つ〉へれそゝけたり・につかはしからぬあふ※⑤
尾　見　／
5きのさまかなとみたま〇て・わかもたまへるにさし
尾　見　／
6かへてみたまへは・あかきかみのうつるはかりいろ
尾　／
7ふかきに・こたかきもりのかたを・ぬりかへしたり・
尾　／
8かたつかたに・てはいとさたすきたれと・よしなから
尾　／　み
9す・もりのした草（くさ）おいぬれはなとかきすさひた　※⑥
尾　／
10るを・ことしもこそあれ・うたてのこゝろはへやとほ
尾お　／（なん）見
11をゑまれなから・もりこそなつのとなん・みゆると」（二十ウ）

尾　／　見
1て・なにくれとのたまふほとも・にけなくや人みつけん
尾　／（二十二ウ）
2と・くるしきを・女はさもおもひたらす
尾　／
3　きみしこはたなれのこまにかりかはんさかりす
尾　／
4きたるしたはなりとも・といふさまこよなくいろめき
尾　／
5たり
尾　／
6　さゝわけはひとやとかめんいつとなくこまなつくめ
尾　／
7るもりのこかくれ・わつら〈は〉しさにとてたち給を・ひか
尾　／
8へてまたかゝるものをこそ思侍らね・いまさらなる身
尾　／
9のはちになんとて・なくさまもいとをかしからねと・
尾　／
10いまきこえん・おもひなからの身そやとて・ひきは
尾　／
11なちていて給を・せめておよひつゝ・はしはしらと」（二十一オ）

尾　／
1えんにうらみかくるを・うへはみうちきはてゝ・み
尾　／（二十三オ）
2さうしよりのそかせ給けり・につかはしか
尾　／
3らぬあはひかなとおかしうおほされて・すき
尾心○○　／
4こゝろなしとつねにもてなやまるめるを・さはい
尾　／
5へと・すくさゝりけるはとて・わらはせ給へは・内侍は
尾　／へ
6なまはゆけれと・にくからぬ人ゆへは・ぬれきぬを
尾　／
7たに・しほりきまほしかるたくひもあんなれ
尾　／
8はにや・いたうもあらかひきこえさせす・人々も
尾　事○／
9おもひのほかなることかなと・あつかうへかめるを・
尾　／　心○○
10頭（とう）中将きゝつけて・いたらぬくまなきこゝろに・ま
尾　／
11たおもひよらさりけるよと・おとろかるゝに・つきせぬ」
（二十一ウ）

尾　／見
1この身のこゝろも・みまほしうなりにけれは・かたら
尾　／（二十三ウ）
2ひつきにけり・この君も人よりはいとことなるを・
尾　／
3かのつれなき人の御なくさめにもせんと・おもひ
尾　見　／
4けれと・みまくほしきはなをかきりありけり
尾　身　／
5とや・うたてのこのみや・いたうしのふれは・源しの
尾　見／
6きみはえしり給はす・みつけきこえては・まつう
尾　／
7らみきこゆるを・よはひのほといとほしけれは・なく
尾　／
8さめんとはおほせと・かなはぬ物うさにいとひさし
尾　／
9うなりにけり・ゆふたちしてなこりすゝしき
尾　／
10よひのまきれに・うむめいてんのわたりを・たゝす
尾　／
11みありき給へは・この内侍・ひはをいとおもしろく」（二十二オ）

尾　　を／
1ひきゐたり・御前なとにても・おとこかたの御あそ
尾　／（二十四オ）
2ひにましりても・ことにまさる人なき上すなれ
尾　／
3は・ものゝうらめしうおほえけるおりから・いとあはれ
尾　〻　／
4にきこゆ・うりつくりなりやしなましと・こゑ
尾　お　／
5はいとをかしくて・うたふそすこしこゝろつ
尾　〻　／
6きなき・文君なといひけんむかしの人も・かくや
尾お　／
7をかしかりけんとみゝとまりたまふ・ひきやみて
尾　／
8いといたうよをおもひみたれたるけしきなり・
尾（きみ）〻
9きみ　あつまやを・しのひやかにうたひて
尾　／　を
10たちよりたまへるに・おしひらいてきませと
尾　／　心○
11うちそへたるも・れいにたかひたるこゝちそ」

（二十二ウ）

尾　／
1するや
尾　／
2　たちぬるゝ人しもあらしあつまやにうた
尾　／（二十四ウ）
3てもかゝるあまそゝきかな・とうちなけくを・われ
尾　／
4ひとりしもきゝおふましけれと・うとましやなに
尾事○　／
5ことをかくまてとおほゆ
尾　／
6　人つまはあなわつらはしあつまやのまやの
尾　／
7あまりもなれしとそおもふ・とてうちすきなま〈ほ〉し
尾　／
8けれと・あまりはしたなくやとおもひかへして・
尾　／
9人にしたかへはすこしはやりかなる・たはふれこと・
尾　／
10なとうちいひかはして・これもめつらかなる心ちそ
尾　の　／
11し給・頭○中将は・このきみのいたうまめたちす」※⑦

（二十三オ）

尾　／
1くして・つねにもとき給か・ねたきをつれなくて・
尾　／　たまふ
2うち〳〵にありき給○○かたおほかるへかんめるを・いかて
尾見　思／（二十五オ）○○　見
3みあらはさんとのみお　もひわたるに・これをみつけ
尾　／　と　お
4たるこゝちいとうれしうおかしうおもふ・かゝるをり
尾　／　心○○
5にすこしをとしきこえて・御こゝろまとはしてこり
尾　／
6ぬやといはんとおもひて・たゆめきこゆ・風ひやゝ
尾　／
7かにうちふきて・やゝふけゆくほとすこしまとろむ
尾　／
8にやとおほゆるけしきなれは・いとやをらいりくる
尾　／　（ね）
9に・きみはそらねふりして・とけてしねられぬころ
尾　／　（は）（も）
10なれは・ふときゝつけて・この中将とはおもひもよらす・
尾　／　（は）
11なをわすれかたくすなるすりのかみなとやうにこそ○」
（二十三ウ）

尾　／
1あらめとおほすに・おとな〳〵しき人にかくにけな　／
尾　見　／（二十五ウ）
2きふるまひして・みつけられんことのくるしさに・
尾　（あな）　へ
3さりやあなわつらはし・いてなんよ・くものふるま
尾　／　心○○
4ひはしるかりつらんものを・こゝろうく・すかいたまひ
尾　／
5けるよとて・なをしはかりをとりて屏風のうしろに
尾　／　お
6いりたまひぬ・中将をかしきをねんして・ひきた
尾　た／ま　（ルビなし）　／
7て給○へる・屏風（ひやうぶ）のもとによりて・〈こほ〳〵と〉たゝみよせなとし
尾　／
8て・おとろ〳〵しうさはかすに・内侍は・ねひたれと・いたう
尾　／　心○○
9よしはみやはらきたる人の・さき〳〵もかやうにて・こゝろ
尾　（に）　／
10うこかすおり〳〵ありけるにならひたれは・いみし
尾　こゝろ　／
11う心○○あはたゝしきにも・この君をいかにしきこえん」
（二十四オ）

尾　／
1とするにかと・わひしうてふるふ〳〵・つとひかへたり・た
尾　／（二十六オ）
2れとしられて・いかていてなんとおほせと・しとけ
尾　／
3なきすかたにて・かうふりなとうちゆかめて・はしらん
尾　／　を
4うしろてをおもふに・われなからいとおこなるへしと
尾　／　（か）
5おほしやすらふ・中将もいかてかわれとしられきこ
尾　／
6えしとおもひて・物もいはす・たゝいみしういかれる
尾　／
7けしきにもてなして・たちをひきぬくに・女あか君〳〵
尾　／　て　／
8とむかひて・ゝをするに・おとこわらひぬへし・このまし
尾　／
9うわかやきて・もてなしたるうはへこそさても
尾　／
10ありけれ・五十七八の人のうちとけて・ものおもひさは
尾　／ひと
11けるけしきは・えならぬ廿よのわか人〇たちの御中にて・」
（二十四ウ）

尾　を　／（二十六ウ）
1ものおちしたるいとつきなし・かくあらぬさまに・
尾　／　見
2もてひかめておそろしけなるありさまをみす
尾　／　見
3れと・なか〳〵しるくみつけ給て・われとしりてことさらに
尾　／
4するなりけりと・おこになりぬ・その人なりけりと
尾見／　お　／
5みたまふに・いとをかしけれは・たちぬきたるかひな
尾　／
6をとらへて・いといたうつみたまへれは・中将ねたき
尾　心〇〇／
7ものからえたへてわらひぬ・まことはうつしこゝろかとよ・
尾　／
8たはふれにくしや・いてこのなをしきんとの給
尾　／
9へと・つとゝらへて・さらにゆるしきこえす・さらはもろ
尾　／
10ともにこそとて・中将のをひをときてひきぬかせ
尾　／（二十七オ）⋘
11給へは・ぬかしとすまふを・とかくひこし　〇ろふほとに」
（二十五オ）

尾
1ほころひはほろ〳〵とたゆれは中将　／
尾
2　つゝむめるなやもりいてんひきかはしかく　／
尾
3ほころふるなかのたもとに・うへにとりきはしるからん　／
尾
4をといふきみ　／
尾
5　かくれなきものとしる〳〵なつころもきたるをう　／
尾
6すきこゝろとそみる・といひかはしてうらやみなく・しと　／
尾
7けなきすかたにひきなされて・みないて給〇ぬ・きみ　／
尾
8いとくちをしうみつけられぬること、おもふたまへ　／
尾
9り・内侍はあさましうおほえけれは・をちとまり　／
尾
10たる御さしぬきをひなとつゝみてたてまつれ　／
尾
11たり」　／（二十七ウ）

（二十五ウ）

尾
1　うらみてもいふかひそなきたちかさねひきて　／
尾
2かへりしなみのなこりに・そこもあらはにとあり・　／
尾
3おもなのさまやとみたまふも・にくけれとわりなし　／
尾
4とおもひたりしさまのさすかにて　／
尾
5あらたちしなみにこゝろはさはかねとよせけん　／
尾
6いそをいかゝうらみぬ・とのみなんありける・をひは中将　／
尾
7のなりけり・わか御なをしよりはいろふかしとみた　／
尾
8まふに・はたそてもなかりけりあやしのことゝも　／
尾
9や・おりたちみたるゝ人は・むへ・ましておこかましし　／
尾
10きことゝもおほからんと・いとゝ御こゝろおさめられた　／心〇〇
尾
11まふ・中将のとのゐところより・これまつとちつけさせ」　／（二十八オ）

（二十六オ）

尾　／
1給へと・おしつゝみておこせたり・いかてとりつらん
尾　お／
2とこゝろやまし・このをひをえさらましかはとおほす・
尾　／／
3そのいろのかみにつゝみて
尾　／
4　なかたえはかことやおふとあやふさにはなた
尾　見　／／
5のをひをとりてたにみす・とてやりたまふたちかへり
尾　お／
6　きみにかくひきとられけるをひなれはかくてた
尾　／
7えぬるなかとかこたん・えのかれさせ給はしとあり・日
尾　を／
8たけておの〳〵・殿上にまいりたまへり・いとしつやか
尾　／（二十八ウ）
9にものとほきさまして・おはするに・頭のきみもい
尾　お／
10とをかしけれと・おほやけことしけく・そうし
尾　／わ　見
11くたす日にて・いとうるはしくすくしたるを・み」

（二十六ウ）

尾　／
1るもかたみにほをゑまれたまひけり・人まにさし
尾　／
2よりて・ものかくしはこりぬらんかしとて・いとねたけ
尾　／
3なるそはめなり・なとてかさしもあらん・たちな
尾　／
4からかへりけん人こそいとをしけれ・まことはうし
尾　／
5やよの中と・いひあはせたまて・とこのやまなる
尾　／
6とかたみにくちかためたまけり・さてそのゝちは・と
尾　／
7もすれは・ことのついてことにいひむかふるくさは
尾　／
8いなるを・いとものむつかしき人ゆへとおほしこ
尾　／（二十九オ）
9るへし・女はなをいみしくえんにうらみかくるを
尾　／（おもひ）
10わひしとおもひありきたまふ・中将いもうとのひ
尾　（たに）／　お
11め君にたにきこえて・たゝさへいをりのをとし

（二十七オ）

尾　　／
1くさにせんとおもふなりけり・やんことなき御はら〳〵
尾　　／
2のみこたちも・うへの御もてなしのこよなきに・
尾　　／
3わつらはしくてこのきみをは・いとことにさりきこ
尾　　／　　を
4えたまへるを・この中将そさらにおしけたれきこ
尾　　／　　ホ
5えしと・はかなき事につけてもおもひいと○みき　※⑧
尾　　／
6こえためる・みかとの御こといふはかりのへたてこそ
尾　　／
7あれ・われもおなし大臣ときこゆる・中にもおほえ
尾　　／　　／（二十九ウ）
8ことなるか・みこはらに又なくかしつかれたる・なに
尾　　／
9はかりおとるへきゝはともおほえぬなるへし・人からは・
尾　　事○（あらま）／
10けにあるへきかきりとゝのひて・なにこともあらま
尾　　／
11ほしくたらひてそものしたまひける・この御」　（二十七ウ）

尾　　み　　事○　　／
1なかのいと□（擦り切れ）こそ・あやしきこともおほかりしか・され
尾　　／
2とこれには・うるさくてなん・そのとしの十月にそ
尾　藤壺　　／（ルビなし）
きさき
3きさきゐたまふめりし・源しの君 宰相（さいしやう）に
尾　　／　　心○○
4なりたまへり・みかとおりゐさせ給なんの御こゝろ
尾　　／　　に
5つかひちかくならせ給○て・このわかみやを・坊には　※⑨
尾　　／
6とおもひきこえさせたまふに・御うしろみしたまふ
尾　　／
7へき人おはせす・御はらからみなみこたちにて・
尾　　／（三十オ）
8源氏のおほやけことしり　　○○たまふすちならねは・
尾　　／　　を
9はゝみやをたに・うこきなきさまになしおきたて
尾　　／
10まつりて・つよりにとおほすになんありける・こき
尾　　／（ルビなし）　　／
こゝろ
11てんいとゝ心○○うこき給ことはりなり・されと東宮（とうぐう）の御」
（二十八オ）

尾
1よいとちかくなりぬれは・うたかひなき御くらゐな　／
尾
2り・おもほしのとめよとそきこえたまける・けに春　／
尾
3宮の御は、にて廿よねんになり給ぬる・女御をお　／
尾
4きたてまつりたまひては・ひきこしたまひかた　／
尾
5き御ことなりかしと・れいのやすからすよ人もき　／
尾
6こえけれと・人の御ほとのいとやんことなきにやゆる　／（三十ウ）
尾
7されたまひけん・まいりたまふよの御ともに・宰〇相の　／
尾
8きみもつかふ〈う〉まつり給・おなしき、さきときこゆる　／
尾
9なかにも・きさきはらのみこのたまひかりか、や　／
尾
10きて・たくひなき御おほえにさへ・ものしたまへ　／
尾
11は・人もいとことにおもひかしつき、こえたり・ましてわり」　／
（二十八ウ）

尾
1なき御こ、ろはみこしのうちも・おもひやられていと、　／
尾
2およひなきこ、ちし給に・す、ろはしきまてなん　／
尾
3　つきもせぬこ、ろのやみにくる、かなくもゐに　／
尾
4人をみるにつけても・とのみひとりこたれつ、・もの　／（三十一オ）
尾
5いとあはれなり・みこはおよすけたまふ・月日にそへて　／
尾
6いとみたてまつりわきかたけなるを・宮いとくるし　／
尾
7とおほせと・おもひよる人のなきなめりかし・けに　／
尾
8いかさまにつくりかへてか・はおとらぬ御ひかりのよに　／
尾
9いてものしたま、〇しと・月日のひかりのそらにかよひ　／
尾
10たるやうに・おはするなめりとそおもへるとや」　／
（二十九オ）

校異は加藤洋介編『河内本源氏物語校異集成』によった。

※①尾州家本は補入により大島本と一致。

※②山本読書室本は大島本・兼良本・岩国吉川家本と一致。

※③尾州家本は補入により大島本・七毫源氏と一致。

※④修正まえの山本読書室本は七毫源氏と一致。

※⑤他本は「はつれそそけたり」。修正後も山本読書室本は「へ」が残ることで独自異文となる。

※⑥尾州家本のみ独自異文。

※⑦尾州家本は岩国吉川本と一致。

※⑧尾州家本はミセケチ以前は独自異文。

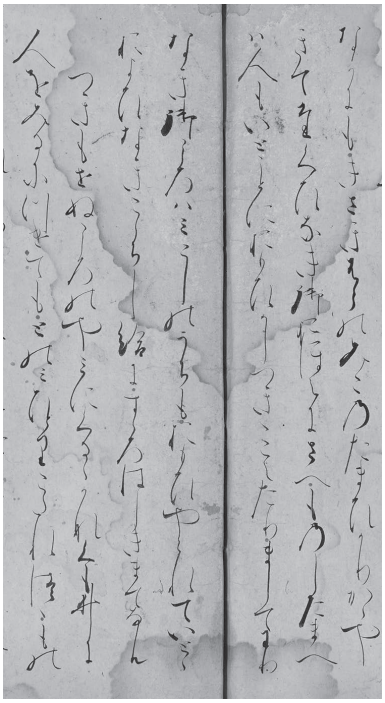
※⑨尾州家本のみ独自異文。

〈付記〉

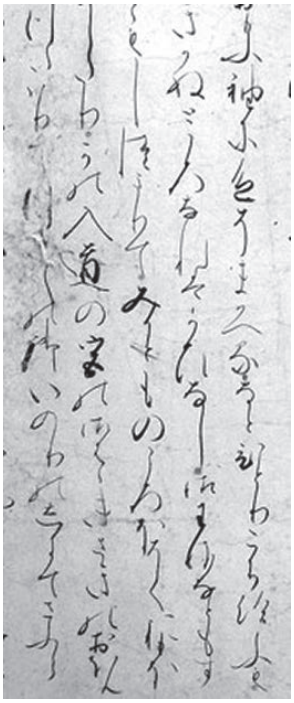
本資料の調査と翻刻にあたり、ご高配とご許可を賜ったご所蔵者様と京都府立京都学・歴彩館に記して感謝申し上げます。

（二〇二一年十月一日受理）

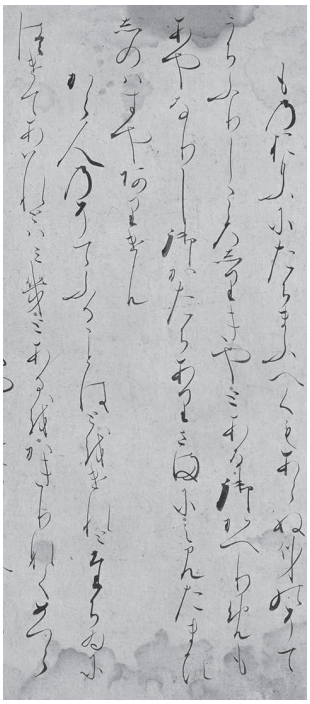
（あだち　けいこ　京都府立大学教授）



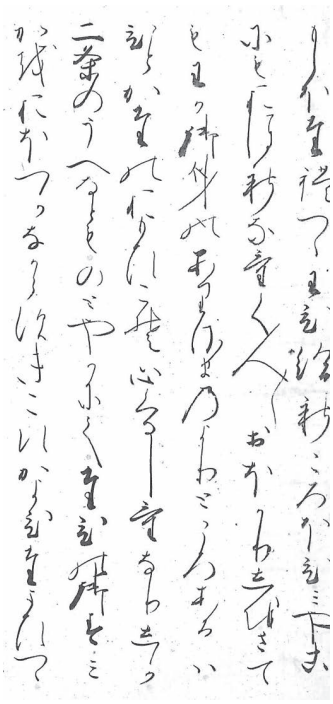
図① 山本読書室蔵　源氏物語



図②　国文学研究資料館蔵　薄雲断簡
（国文学研究資料館編『源氏物語　千年のかがやき』）

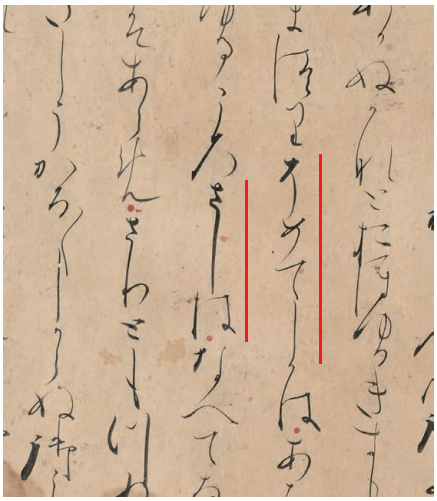


図③ 山本読書室蔵　源氏物語

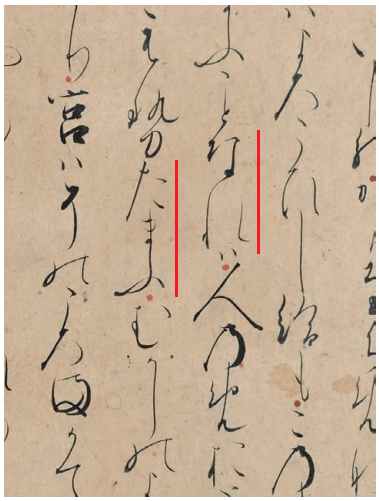


図④ 天理図書館蔵　蓬生巻一丁表
（天理善本叢書）

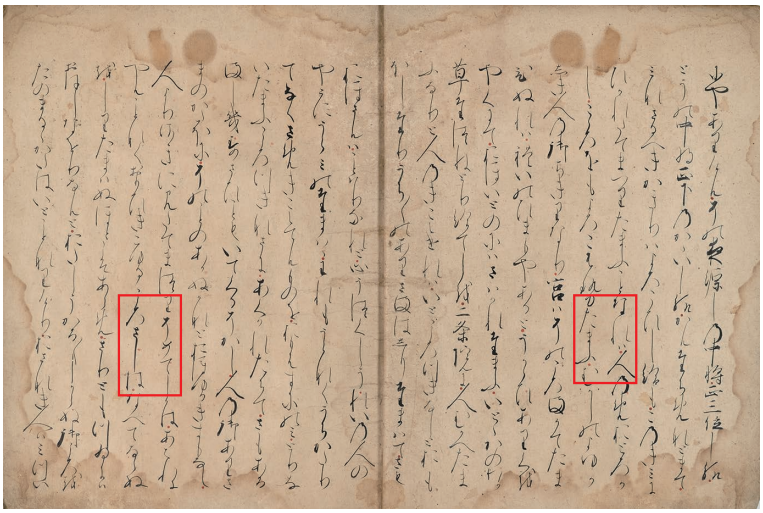
図⑤五丁オモテの7行目「そめて」の「て」、8行目「さしは」の「し」に、図⑥四丁ウラの4行目「なれは」下の朱点、5行目「たまふ」下の朱点が色移りしている。



図⑤　五丁オのウツリ



図⑥　四丁ウの朱点



図⑦　四丁ウラと五丁オモテの見開き